

# 金剛寶戒寺便り

三月一日発行 第十二号

檀信徒の皆さまこんにちは。ようやく春めて来ました。まだまだ寒い日も有りますが朝晩の鐘つきをしていますと、陽が長くなつたの感じます。花粉症の方にとつては辛い季節ですが、早めの対策が一番効果があるそうです。

さて、いよいよやつて参りました。来月は高野山開創千二百年記念大法会団体参拝です。募集をお願いした時には随分と先の事のように思いましたが、準備は着実に進んでいます。

四月号での報告を楽しみに待っています。二月の月上旬に福岡青年教師会の御祝いがあり久々に福岡へ行って来ました。道中かねてより行って見たかった観世音寺にお参りして来ましたが、観世音寺は太宰府にある天台宗のお寺ですが、天智天皇が母親の斉明天皇の追善供養のために七世紀後半に建てられたお寺です。奈良の東大寺、栃木の下野薬師寺と共に「天下三戒壇」の一つに数えられている九州でも有数の古刹です。現在残る建物は近世の再建で昔の面影は有りませんが、その宝物館に安置されている寺宝は当に圧巻です。奈良の古寺にも負けない作風で本当に感動しました。遣唐使船で帰朝したお大師様が滞在して居られたのも納得出来ます。太宰府天満宮からも遠く有りませんので是非行かれてみて下さい。

また、すぐ傍にある九州国立博物館であった「古代日本と百済の交流」展にも立ち寄りました。昨今では朝鮮半島、中国との国交が上手くいってませんが、改めて日本文化への影響の大きさを再確認しました。こちらも素晴らしい展示品が多かったのですが、その中でも印象的だったのが金、銀、銅で出来た三種類からなる三重構造の「舍利容器」でした。ご存じのように、舍利とはお釈迦様のお骨のことです。容器はとも小さくシンプルでしたが美しく均整のとれた作品でした。お釈迦様の入滅後千年以上経つての宝物ですが、舍利をどれだけ大切にされていたのか、名もなき作者の気品と思いが伝わってきました。

我々がお骨を大切にするルーツもここにあるのかもしれない。他にも念持仏であったと思われる端正なお姿の如来像なども拝観出来、とても有意義な時間となりました。

今月末には布教研修会に参加してきました。九州各県が持ち回りで当番になるのですが、今年は大分が担当で別府でありました。

初日の講演は南こうせつさんのお兄さんでもある、南慧昭和尚と音楽療法士の黒田恵子さん、古江範子さんでした。南さんは「歌說法」という独自の講演で有名ですのでご存じの方もいるかもしれませんが、流石に歌がお上手でした。

音楽療法とは「音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを心身の障害の回復、機能の維持

改善、生活の質の向上、行動の内容などに向けて、意図的計画的に行われる治療方法」だそうです。効果としては①回想とコミュニケーションの促進②誤嚥予防③発生・発語の訓練④発散⑤脳の活性化。などがあげられます。実際に歌などを歌いながら実習を受けたのですが、それらすべての効用を感じました。希望者が多ければ当山でも講演をして頂こうと思っています。

二日目は二十代と三十代の若手青年僧による布教実習でした。お坊さんの前で法話をするとというのが一番緊張するのですが、額に汗をかきながら、持ち時間一杯、一生懸命に話をする姿には胸を打たれ、初心の大切さを痛感致しました。私ももっと精進しようと胸に誓いました。

四月八日はお花まつりです。当山では旧暦で行いますが、お釈迦様は生まれて直ぐに七歩歩いて「天上天下唯我独尊」と言われたそうです。訳すのであれば「大宇宙で我々人間だけに、たった一つの尊い使命、目的がある」(私たち人間だけが果たせる尊い使命目的があるのだ)となるのでしょうか。私たち一人一人の使命とは何でしょうか？

昨今、悲惨な事件、社会問題が勃発しています。このグローバルな時代であるからこそ、相手を認め合い、違いを理解しあう多神教の仏教の思想をもっと広める必要があるのではないかと布教研修の中で思いました。合掌